

港区の生物多様性戦略のイベント記録、
委員会議事録からの生物多様性

生態系

未完

2013/04/08
F. Nakamura

モノ
(供給サービス)

精神
(文化サービス)

環境
(調整サービス)

港区私の 生物多様性

アユとスズギ,

コアジサシ,

カワセミ,

クロジョウウビタキ,

イトトンボ,

ベニイトトンボ,

希少種マツバラシ,

埋土種子,

身近な動植物、

タンポポ世代,

ダンゴムシ世代,

ザリガニ世代,

カブトムシ世代,

絶滅危惧種

そもそも人は自然が好き,

心の屋上庭園,

里山里海

屋上緑化,

港区の自然環境,

原っぱ,

森,

土壌,

海・川・山,

土地(調整サービス)

大地・海洋

1. 「生物多様性とは」

つながり，個性，自然，生きものにぎわい，命の輝き

2. 「生物多様性の場・空間」

江戸前の海，大使館の自然，古川，心の屋上庭園，屋上緑化，学校ビオトープ，粗放的公園，草ぼうぼう・教育園，原っぱ，子どもが勝手に遊べる場，プレーパーク，トンボ池，森，ビオトープ，社寺，海・川・山，自然を感じるコンパクト空間，屋敷林，里山里海

大地に根ざした緑化，外部に依存した生態系，港区の自然環境，価値の高い緑地，
大きなところで流域，周辺地域，残された自然，引き継がれた自然，作られた自然，
学校ビオトープ，水族館，博物館，海側，山側，古川，春の小川

3. 「生物多様性の要素」

ヤギやミツバチ，働き方，自分ごと化，思いやり，そもそも人は自然が好き，都市型自然，
アコとスズキ，タンポポ世代，ダンゴムシ世代，ザリガニ世代，カブトムシ世代，イトトンボ，
カワセミ，希少種マツバラ

ベニイトトンボ，土壌，屋上緑化，ハシブトガラスの影響，外来種，身近な動植物，
埋土種子，普通種，食料はみな命，食料や環境，農業と食料の問題，オオタカが来る状況，
クロジョウビタキ，コアジサシ

4. 「港区戦略の視点・理念」

私たちのくらしと生物多様性，働くなかに生物多様性の視点

生きものをつながっていた時代の人々が次世代に伝える，

一次産業と生物多様性，環境と経済の共存，世界に誇れる戦略づくり，港区の生活基本法，
エコロジーとエコノミー，土地の記憶，港区版サプライチェーン，市民レベルの考え，10-20年
先を見据える，健康なライフスタイル，ブランド化，生命を引き継ぐビジネス，教育の場に伝える，
自然体験はオマケではない，場をつなぐ，人材・歴史・地勢の視点，命の輝きの再発見，食
べ物がどこから来たか

土壌の重要性，ハシブトガラスの影響，自然環境保全，自然資源，自然資本，流域圏，
次世代の意見を戦略に組み込む，鳥以外の生き物のためのビオトープネットワーク
港区は世界中の生物多様性と関わっている，企業の力を生かす，港区は外部依存が大きい
ザリガニは子どもにとって命を学ぶ最高の生きもの，生きものの視点，文化の視点

5. 「どのようにしたい・目標」

運河で泳ぐ，子どもの感性を育てる，子どもの心を養う，豊かな感性と心，オアシス都市，緑視
率世界一，足もとに生物多様性を感じる，ビルの中に自然がある，

食を感じる田畑，人と行政とのネットワーク，港区産のランチ会，大使館に生物多様性を聞く，
生態系に見える化，自然を介して人もつながる，

生物多様性を考える場づくり，生物多様性と自分との関係理解，身近な生物多様性を示す，生物

多様性で港区と他地域とのつながりを知る，健康，古川に雑魚，海苔づくり，五感をつかった自然体験，生物多様性を守るサイクル

- ・ビオトープネットワークで土地の記憶を子どもたちの未来につなげる
- ・自然の高いポテンシャルを活かして，緑視率世界一，生活とビジネスの調和したまち
- ・港区に残された自然，新たにつくられた自然，命の輝きを再発見し伝えていく

区民が地域戦略に取り入れて欲しいこと，土で遊ぶ，・いきものにぎわう港区，人々と生き物が共に生きるまち，生物の多様性，生き物のにぎわいがあるまち，生物多様性条約，流域圏，ブランド力，生態系サービス，生物多様性という概念を解かりやすく伝える，自然とふれあうことの意味，生物へのアクセスのしやすさ，水質の改善と緑化，昆虫の保全のための食草，貴重な巨木の保全，専門家の派遣制度など社会インフラの整備，生態学的手法を用いた管理，森と水会議，湾岸自治体協議会，最終目標は真の環境改善生物へのアクセス

6. 「何をするか・アクションプラン」

移動は自転車，食べ物を意識，合成洗剤を使わない，ゴキブリをアシダカグモで，港区での地産地消，江戸前 ESD，子どもの自然体験の場・森の幼稚園・海の幼稚園，地域のポテンシャルマップづくり，在来種での緑化，我慢，分散化，ミツバチロード，生物多様性を教育に，子どもが自分で遊び場を見つけるマップ，未来に伝える，トレーサビリティ，生物多様性配慮の商品選択，孫とおじいちゃん・おばあちゃんの交流，リスクにふれる，生命（いのち）にふれる場づくり

イメージキャラクターに，ミナちゃんとトク君をつくる。

シンボルとなる生きものの選定，チョウの舞う街づくり，都心でカワセミが飛ぶ，都市における保全のシンボル（将来の目標種）を定める ロンドンのクロジョウビタキなど，生物多様性の価値の見える化，生物多様性に関する情報，知識の情報発信と収集，海岸の再自然化による江戸前の再生，小中学校や区立公園を活用したハチミツやヤギ乳の採集など，表彰制度，生態系に配慮した農法の食材を利用，生態系に配慮した屋上緑化などを誘導する，専門家の配置，モニタリングができる人材の育成，周辺地域との連携，外国人大使館との連携，事業者との協働，準絶滅危惧種を指標生物としたポテンシャルマップの作成，チョウ，トンボ，カワセミなど港区にあったシンボル生きものを選定する，自然の湧水を生かした小川の流れる林（公園）を増やす，二酸化炭素の削減，プロのナチュラルリストのワークショップ，伐採される樹木の保全，子どもにわかりやすい副読本の作成し，年齢にあった普及を行う，順応的管理，ウェブを使った情報公開，関心のある大使館を取り込む，広報戦略，流域圏で考える，学校教育，社会教育，コミュニケーションデザイン，指導員の養成，生物を活用してブランド力をあげるジュニアが来て喜ぶ企画

7. 「戦略作りについての要望」

愛知ターゲットとの関係を明確に，区民の意見をすべて取り入れた方がよい，
区民・事業者等がつくる・担う地域戦略づくり，
港区は外部にかなり依存することを明記する，区民・事業者が作る，担う戦略作り，
歴史的な視点，自然の変遷，外来種の流入状況，
港区は，何に力を入れるのかをはっきりした方がよい。核を決めて取り組むべき，
土壌について記述する，課題が多すぎてわかりづらい，課題整理が必要，
生物多様性の危機を訴えるだけでなくプラス面の普及啓発をする，
外国との結びつきを戦略に盛り込む，多様な主体の意見を取り込む，
この地域の人と自然のかかわりを知るため歴史の話は重要，数値では表せない環境，
区が少し変わってほしい，生物多様性を担う人材が必要，
港区らしいことをピックアップして，重点的に押し出す，土地利用の変遷，植生の変遷
NPO, NGO市民団体の現状評価，外来生物以外の用語定義を明確化，保全，再生，
利用，用語の定義と委員の共通認識が重要，
生物多様性の議論の難しさは基準がわからないため，シティ・バイオダイバーシティ・イ
ンデックスの実施，都市なりの生物多様性の保全，いきもの作戦会議，食，子育て，働
き方，昼間人口100万人，エコプラザ，みなと環境にやさしい事業者会議，
生物多様性の重要性，学生グループからの提案

生物多様性みなと区戦略（仮称）策定のためのアンケートやイベント記録，

委員会議事録等から見えてきたもの

2013/04/08TN

作：中村・高橋・武田・遠藤

●背景

I. 自然環境の変化と人類の危機

1. 人口増加による都市の拡大，経済発展の一方で自然破壊及び環境汚染の進行

2. 生物多様性の劣化と温暖化・気候変動等による生態系サービスの減少

3. 生態系ティッピングポイント（転換点）の到来と資源・エネルギーの涸渇の予測

II. 持続可能な社会への対策

1. リオの地球サミットでの生物多様性条約・気候変動枠組条約 (1992)

生物多様性条約、

2. 生物多様性国家戦略 (1995-2012) と生物多様性基本法 (2008)

生物多様性国家戦略(2012-2020)

外来生物法

3. 第10回生物多様性締約国会議での愛知目標と名古屋議定書 (2010)

COP 11

4. 生物多様性地域連携促進法 (2010)

5. 第三次港区みどりと水の総合計画 (2011) と港区基本計画の策定 (2012)

港区基本計画の改訂

6. 東京都はじめ全国の自治体で生物多様性の地域戦略づくりが進行 (現在)

●港区, 私の生物多様性 (生物多様性とは, 生物多様性の現場)

つながり, 個性, 自然,

生き物のにぎわい 命の輝きの再発見,

江戸前の海, 緑波率・住の量

●現状

1. 世界最大の都市, 東京の中心にあり, きわめて高い昼間人口を有する.

昼間人口100万人, 都市型自然, 外来種,

業務地区, 様々な地区の違い

2. 武蔵野台地から東京湾までの流域の中での人々の暮らしと文化の歴史がある.

土地の記憶, 文化の視点, 屋敷林, 古川, 春の小川, 社寺,

3. 多くの企業や大使館があり, 情報・物流と人々の国際交流拠点である.

大使館の自然, みなと環境にやさしい事業者会議,

外国との結びつき 企業のカ: 外国籍^者の人が多い

●課題

1. ビル等の人工物が多く水や大気汚染があり、自然環境が限られている。

土壌について記述する、 土壌の重要性、

ハシブトガラスの影響、 普通種、 下川カササギ

産卵子による交雑 産卵子ほこりトボがみさゆい。

2. 食料をはじめ資源・エネルギー等の生態系サービスのほとんどを外部依存している。

港区は外部にかなり依存することを明記する、 港区は外部依存が大きい

農業と食料の問題、 港区は世界中の生物多様性と関わっている、

周辺地域、 外部に依存した生態系、 流域圏、

3. 人々特に子どもたちが本体の自然の生物・生命にふれる機会が少ない。

子どもの自然体験の場・森の幼稚園・海の幼稚園、 生物へのアクセス、

命の輝きの再発見、

ザリガニは子どもにとって命を学ぶ最高の生きもの、

ヤギやミツバチ、

4. 生物多様性に対する理解が浅く、その保全・再生の取組が必要となっている。

食料や環境、

生物多様性の議論の難しさは基準がわからないため、シティ・バイオダイバーシテ・インテグリスの取組

ベンチマーク

外来生物以外の用語定義を明確化、保全、再生、利用、用語の定義と委員の共通認識が重要、

課題が多すぎてわかりづらい、課題整理が必要、

●目標・理念

都市と生物多様性

生物多様性を守るサイクル、 生物の多様性、 生物多様性の重要性、 健康、

チョウ、トンボ、カワセミなど港区にあったシンボル生きものを選定する、

シンボルとなる生きもの選定、①チョウの舞う街づくり、②都心でカワセミが飛ぶ、

都市における保全のシンボル（将来の目標種）を定める⇒ロンドンのクロジョウビタキなど、

生物多様性の価値の見える化、 自分ごと化、 生態系の見える化、

生物を活用してブランド力をあげる

人々と生き物が共に生きるまち、 オオタカが来る状況、 古川に雑魚、 運河で泳ぐ、

オアシス都市、 緑視率世界一、 環境と経済の共存、 生きものにぎわいがあるまち、

いきものにぎわう港区、

一次産業と生物多様性、 豊かな感性と心、 ビルの中に自然がある

働くなかに生物多様性の視点 10-20年 海苔づくり、

足もとに生物多様性を感じる、 市民レベルの考え、

私たちの暮らしと生物多様性、 生物多様性と自分との関係理解、

五感をつかった自然体験、

健康なライフスタイル、

ブランド化、 港区の生活基本法、 ブランド力、

最終目標は真の環境改善

人と行政とのネットワーク、

世界に誇れる戦略づくり、 区民・事業者が作る、担う戦略作り、

港区は、何に力を入れるのかをはっきりした方がよい。核を決めて取り組むべき、

港区らしいことをピックアップして、重点的に押し出す、 次世代の意見を戦略に組み込む、

区民の意見をすべて取り入れた方がよい、 愛知ターゲットとの関係を明確に、

●取組の視点（基本方針）

1. 港区の人々のいとなみと仕事環境を豊かにする。

働き方

かやむくまち、にこやうまち、はぐくむまち

2. 経済活動と生物多様性の保全・再生を調和・共存させる。

エコロジーとエコノミー、生命を引き継ぐビジネス、生活とビジネスの調和したまち

3. 自然環境のポテンシャルを活かしつなげる。

自然環境保全、鳥以外の生き物のためのビオトープネットワーク 都市なりの生物多様性の保全、

・自然の高いポテンシャルを活かして、価値の高い緑地、生きものの視点、民衆に開かれた

4. 地域の歴史・文化を活かし伝える。

この地域の人と自然のかかわりを知るため歴史の話は重要、数値では表せない環境、

歴史的な視点、残された自然、引き継がれた自然、作られた自然、人材・歴史・地勢の視点、

生きものとながっていた時代の人が次世代に伝える

5. 子どもたちのため、子どもの視点からのまちづくり。

土で遊ぶ、子育て、

生きろか

6. 地域の誇りと愛着を高める。

ブランド

7. 多様な人々の力をつなげ活かす。

いきもの作戦会議、企業力を生かす、多様な主体の意見を取り込む、周辺地域との連携、

学生グループからの提案、大使館に生物多様性を聞く、外国との結びつきを戦略に盛り込む、

区民・事業者等がつくる・担う地域戦略づくり、自然を介して人もつながる、場をつなぐ、

8. 食や仕事、子育てなど日々の生活をつうじて生物多様性を考える。

食べ物を意識、港区版サプライチェーン、食べ物はどこから来たか、

ポジティブシンキング

9. 港区の未来と持続可能な社会を見据える

流域圏で考える、大きなところで流域、先を見据える、

●行動計画（アクションプラン）

1. 知る（調査・モニタリング、診断・評価 ほか）

生物多様性で港区と他地域とのつながりを知る、自然とふれあうことの意味、
準絶滅危惧種を指標生物としたポテンシャルマップの作成、トレーサビリティ、
子どもが自分で遊び場を見つけるマップ、生物多様性に関する情報、
NPO、NGO市民団体の現状評価、ウェブを使った情報公開、
土地利用の変遷、植生の変遷 自然の変遷、外来種の流入状況、
知識の情報発信と収集 順応的管理、

2. 守る（保護、保存 ほか）

草ぼうぼう・教育園、生態学的手法を用いた管理、
貴重な巨木の保全、伐採される樹木の保全、

昆虫の保全のための食草、粗放的公園、

Conservation . protection . preservation
コンサーベーション プロテクトン プレザベーション

3. つくる（創出、再現 ほか）

ビオトープネットワークで土地の記憶を子どもたちの未来につなげる

生命（いのち）にふれる場づくり 生物へのアクセスのしやすさ、

地域のポテンシャルマップづくり、自然を感じるコンパクト空間、ビオトープ

生態系に配慮した屋上緑化などを誘導する、大地に根ざした緑化、在来種での緑化、

自然の湧水を生かした小川の流れる林（公園）を増やす、水質の改善と緑化、

海岸の再自然化による江戸前の再生、ミツバチロード、トンボ池、

土と水のふるまひの作り 春の川回復計画

京連道路をといはする

4. つなげる (ネットワーク, 連携 ほか)

関心のある大使館を取り込む、 外国人大使館との連携、

事業者との協働、 湾岸自治体協議会、 森と水会議、

環境課と都市開発の担当部署の連携

5. つかう (資源供給, 環境調整, 精神文化 ほか)

生態系に配慮した農法の食材を利用、 生物多様性配慮の商品選択、

港区での地産地消、 生態系サービス、 港区産のランチ会、 食を感じる田畑、

二酸化炭素の削減、 合成洗剤を使わない、 移動は自転車、 太陽光発電ソーラーパネル

リスクにふれる、 分散化、 我慢、 ゴキブリをアシダカグモで、

小中学校や区立公園を活用したハチミツやヤギ乳の採集など、

6. 伝える (政策制度, 人材組織, 教育普及 ほか)

生物多様性の危機を訴えるだけでなくプラス面の普及啓発をする、 エコプラザ、

港区に残された自然、新たに作られた自然、命の輝きを再発見し伝えていく 専門家の配置、

専門家の派遣制度など社会インフラの整備、 生物多様性という概念を解かりやすく伝える、

区が少し変わってほしい、生物多様性を担う人材が必要、 指導員の養成、 社会教育、

イメージキャラクターに、ミナちゃんとトク君をつくる。 年齢にあった普及を行う、 広報戦略、

子どもにわかりやすい副読本の作成 コミュニケーションデザイン、 江戸前ESD、 表彰制度、

モニタリングができる人材の育成、 学校ビオトープ、 学校教育、 プレーパーク、

プロのナチュラルリストのワークショップ、 子どもの心を養う、 子どもの感性を育てる、

ジュニアが来て喜ぶ企画、 生物多様性を教育に、 教育の場に伝え 水族館、 博物館、

未来に伝える、 孫とおじいちゃん・おばあちゃんの交流、 身近な生物多様性を示す、

自然体験はオマケではない、 生物多様性を考える場づくり 子どもが勝手に遊べる場、
税金との優遇制度 生物多様性に関与他の政策等との連携

専門家による出張授業 国際的を展納、国際的をアピール 女性の参画